

2018年4月18日

各位

本店所在地 東京都千代田区麹町2丁目1番地  
会社名 そーせいグループ株式会社  
(コード番号4565 東証マザーズ)  
代表者 代表執行役社長 CEO ピーター・ベインズ  
問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション 伴瀬晴美  
電話番号 03-5210-3290 (代表)

**新規 A<sub>2A</sub> 受容体拮抗薬「AZD4635」、  
免疫応答性の回復および抗腫瘍効果の可能性を確認**

*2018年米国癌学会年次総会において新たなデータを発表*

当社子会社である Heptares 社が開発し、アストラゼネカ社に譲渡した新規低分子アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体 (A<sub>2A</sub>R) 拮抗薬に、免疫応答性を回復させ、抗腫瘍効果をもたらす可能性があることが確認されましたことをお知らせいたします。

これは、現地時間4月17日、アストラゼネカ社により、米イリノイ州で開催された米癌学会 (American Association of Cancer Research) 年次総会でのポスターセッション (抄録番号 3751) で、強力かつ選択性の高い拮抗作用を持つ、経口投与可能な低分子の AZD4635 に関し、「Inhibition of A<sub>2A</sub>R by AZD4635 induces anti-tumor immunity alone and in combination with anti-PD-L1 in preclinical models (前臨床モデルにおいて AZD4635 が単剤投与及び抗 PD-L1 との併用療法により A<sub>2A</sub>R を阻害することで抗腫瘍免疫を誘導)」の表題の下、以下の前臨床データ結果が報告されました。

- A<sub>2A</sub>R を介したアデノシンシグナル伝達により、様々な免疫抑制作用が生じ、腫瘍の増殖を促進させる
- AZD4635 は A<sub>2A</sub>R 受容体に選択性の高い拮抗作用を持つ経口薬であり、アデノシンによる T 細胞抑制作用を元に戻すことが示された
- AZD4635 単剤及び抗 PD-L1 抗体との併用療法は、高アデノシン及び低アデノシンを示す同系腫瘍モデルにおいて腫瘍増殖を著しく減少させた
- こうした作用は免疫不全動物では起こらず、免疫介在性作用機序が確認された。AZD4635 による標的分子への作用 (ターゲットエンゲージメント) については引き続き研究を進めていく
- これらのデータは、AZD4635 が、単剤及び他のガン免疫療法との併用療法により腫瘍のアデノシンレベルとは無関係に、免疫応答性を回復させ、抗腫瘍効果をもたらす可能性があることを示唆している

なお、固形がん患者を対象に、単剤治療及びアストラゼネカ社の抗 PD-L1 抗体である IMFINZI® (durvalumab) との併用療法として、AZD4635 の第 I 相臨床試験を現在実施中です (NCT02740985)。

## <ご参考>

### AZD4635 について

AZD4635 はアデノシン A<sub>2A</sub> 受容体 (A<sub>2A</sub>R) に拮抗作用を持つ選択性の高い経口薬であり、当社子会社 Heptares 社により創製され、2015 年にアストラゼネカ社にその権利を譲渡いたしました。高レベルのアデノシンは、アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体の活性化によりアデノシンレベルが上昇し、T 細胞の機能が損なわれることで、宿主免疫応答が抑制され、ガンの進行を助けます。AZD4635 により、A<sub>2A</sub> 受容体のシグナル伝達を経たアデノシンシグナル伝達が特異的に阻害された結果、免疫応答性が高まり、がん細胞を破壊し腫瘍量を減少させる潜在力が上昇します。この結果から、A<sub>2A</sub> 受容体拮抗作用により、腫瘍微小環境における T 細胞の抗がん反応が高まることから、単剤または併用療法として新規の作用機序の可能性がもたらされます。

### そーせいグループ株式会社について

そーせいグループは、G たんぱく質共益受容体 (GPCR) をターゲットとした独自の StaR<sup>®</sup> 技術並びに構造ベースドラッグデザイン技術プラットフォームから生み出される新薬のデザイン・研究開発にフォーカスした、国際的なバイオ医薬品企業です。

当グループは中枢神経系疾患、ガン、代謝疾患、その他希少疾患等、複数の疾患領域において、提携あるいは自社で開発している広範かつ深いパイプラインの研究開発を進めています。

当社が進めている臨床開発プログラムには、アラガン社との提携によるアルツハイマー病の対処療法を目的とした候補薬の開発に加え、レビー小体型認知症を対象とした当社による日本国内の第Ⅱ相臨床試験、アストラゼネカ社との提携によるがん治療を目的としたがん免疫療法の開発も含まれています。その他に、当グループはこれまでノバルティス社、ファイザー社、第一三共株式会社、ペプチドリーム社、カイマブ社、モーフォシス社等と提携しています。

当グループは、英国に研究開発施設をもつ、日本に本社を置く会社です。

当社は東証マザーズに上場しています（証券コード：4565）。そーせいグループに関する詳細な情報は、[www.rosei.com](http://www.rosei.com) をご覧下さい。